

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **60178939 A**

(43) Date of publication of application: **12.09.85**

(51) Int. Cl.

F02D 19/02
F02D 41/34
F02M 27/02

(21) Application number: **59035719**

(71) Applicant: **NISSAN MOTOR CO LTD**

(22) Date of filing: **27.02.84**

(72) Inventor: **HIROTA TOSHIO**

**(54) FUEL INJECTION CONTROL DEVICE IN
REFORMED GAS ENGINE**

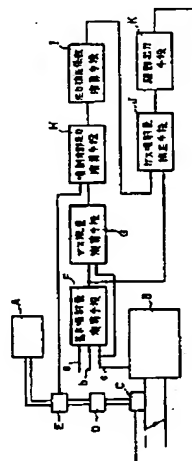
this arrangement the amount of gas fuel injection may be controlled with a high degree of accuracy.

(57) Abstract:

COPYRIGHT: (C)1985,JPO&Japio

PURPOSE: To control the air excessive rate of an engine with a higher degree of accuracy, by providing a pressure compensating coefficient computing means for computing the pressure compensating coefficient of the engine in accordance with a true gas pressure, and a gas injection amount compensating means for compensating the basic gas injection amount of the engine.

CONSTITUTION: There is provided a gas pressure sensor E between a reformer A for reforming liquid fuel into gas and a gas injection valve C. A basic fuel injection amount computing means F computes a basic gas injection amount in accordance with the operating condition of the engine. Further there are provided a pressure compensating coefficient computing means I for computing a pressure compensating coefficient in accordance with a true gas pressure which is computed by a means for computing the pressure of a fuel injection valve section H and a gas injection amount computing means J for computing the basic gas injection amount in accordance with the pressure compensating coefficient and a drive output means K for delivering a drive pulse signal to the gas injection valve C. With



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭60-178939

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)9月12日

F 02 D 19/02

6718-3G

41/34

8011-3G

F 02 M 27/02

7407-3G

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 改質ガスエンジンの燃料噴射制御装置

⑯ 特 願 昭59-35719

⑰ 出 願 昭59(1984)2月27日

⑱ 発 明 者 広 田 寿 男 横須賀市夏島町1番地 日産自動車株式会社追浜工場内

⑲ 出 願 人 日産自動車株式会社 横浜市神奈川区宝町2番地

⑳ 代 理 人 弁理士 志賀 富士弥 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

改質ガスエンジンの燃料噴射制御装置

2. 特許請求の範囲

(1) 液体燃料を水素に富むガスに改質する改質器と、エンジン吸気系に臨設され、かつエンジン回転に同期した駆動パルス信号により間欠的に開閉されるガス噴射弁と、上記改質器と上記ガス噴射弁との間に介装されたガス遮断弁と、上記ガス遮断弁の上流側に設けられたガス圧力センサと、エンジンの運転状態に応じてガス基本噴射量を演算する基本噴射量演算手段と、上記ガス基本噴射量とエンジン回転数とから単位時間当りのガス流量を演算するガス流量演算手段と、上記ガス流量から圧力損失を演算し、上

記ガス圧力センサの検出ガス圧力を補正してガス噴射弁における真のガス圧力を求める噴射弁部圧力演算手段と、この真のガス圧力に基づき圧力補正係数を演算する圧力補正係数演算手段と、上記圧力補正係数によつて上記ガス基本噴射量を補正するガス噴射量補正手段と、この補正されたガス噴射量に対応して上記ガス噴射弁に駆動パルス信号を出力する駆動出力手段とを備えてなる改質ガスエンジンの燃料噴射制御装置。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

この発明は液体燃料の改質により得られる改質ガスをエンジンに供給するようにした改質ガスエンジンの燃料噴射制御装置に関する。

従来技術

アルコール等の液体燃料は触媒を介して加熱することにより、水素、一酸化炭素を主体とした可燃性のガスに改質することができ、アルコール等をそのまま燃焼させた場合よりも熱効率や排気特性の向上が図れることから、この改質ガスを単独で、あるいは未改質の液体燃料と併用する形で使用する改質ガスエンジンが注目されている。

この改質ガスエンジンにおいては、エンジンの排気熱の回収を図るために、熱源として排気ガスを利用する改質器が一般に採用されており、排気バイパス量の調節による改質器の温度制御や液体燃料供給量の制御により、改質反応を運転状態に応じて制御するようにしているが、応答性等の点から当然のことながらガス噴射弁に一定圧力の改

質ガスを安定的に供給することは不可能である。

そこで、このような圧力変動に対処して所期の燃料噴射量を確保するために、従来、特開昭52-113426号公報に記載のように圧力レギュレータによつて発生した改質ガスを予め一定圧力に調圧する方法も採られていたが、暖機時などの改質性能の低い運転領域で改質ガスを有効に利用できなくなってしまう等の問題があり、近年では改質ガスの流路に圧力センサを設け、その検出圧力に応じてガス噴射弁のガス噴射量を補正する方法が考えられている(例えば特開昭58-70309号)。

しかし、このように検出圧力によりガス噴射量を補正する方法においても、上記ガス圧力センサがガス噴射弁の直前に設けられていない限りは、

ガス圧力センサ下流側での配管等の圧力損失が存在し、ガス噴射弁で計量される改質ガスの真の圧力を測定しているとは言えないので、高精度に空気過剰率を制御しようとした際に、比較的大きな誤差の要因となつてしまう。とりわけ、上記ガス噴射弁と改質器との間には、通常エンジン停止時のガス漏洩を防止すべくガス遮断弁が設けられており、該ガス遮断弁が閉弁している暖機中のガス圧力変化を上記ガス圧力センサを用いて監視するには、上記ガス圧力センサはガス遮断弁の上流側に配設しなければならない。このことから必然的にガス圧力センサの取付位置がガス噴射弁から離れてしまい、しかも上記ガス遮断弁による圧力損失も重なつて、大きな誤差を生じてしまうのである。

発明の目的

この発明は上記のような従来の問題に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、圧力センサ下流の配管やガス遮断弁における圧力損失の影響を排除して、改質ガスの圧力変動に対する噴射量の補正を更に精度良く行えるようにすることにある。

発明の構成

この発明に係る改質ガスエンジンの燃料噴射制御装置は、第1図に示すように、液体燃料を水素に富むガスに改質する改質器Aと、エンジンBの吸気系に臨設され、かつエンジン回転に同期した駆動パルス信号により間欠的に開閉されるガス噴射弁Cと、上記改質器Aと上記ガス噴射弁Cとの間に介装されたガス遮断弁Dと、上記ガス遮断弁

Dの上流側に設けられたガス圧力センサEと、アクセル操作量a、吸入空気流量b、エンジン回転数c等のエンジン運転状態に応じて、エンジン1回転当たりあるいは噴射1回当りのガス基本噴射量を演算する基本噴射量演算手段Fと、上記ガス基本噴射量とエンジン回転数とから単位時間当りのガス流量を演算するガス流量演算手段Gと、上記ガス流量に基づいてガス圧力センサE下流の配管やガス遮断弁Dでの圧力損失を演算し、上記ガス圧力センサEの検出ガス圧力をその圧力損失だけ補正してガス噴射弁Cにおける真のガス圧力を求める噴射弁部圧力演算手段Hと、この真のガス圧力に基づき圧力補正係数を演算する圧力補正係数演算手段Iと、上記圧力補正係数によつて上記ガス基本噴射量を補正するガス噴射量補正手段Jと、

この補正されたガス噴射量に対応して上記ガス噴射弁Cに駆動パルス信号を出力する駆動出力手段Kとを備えた構成であつて、ガス圧力センサEで検出されたガス圧力とガス噴射弁Cにおける真のガス圧力との差を上述のようにガス流量から推定し、これにより検出されたガス圧力を補正することによつて、ガス噴射量を重量流量として一層高精度に制御することができるのである。

実施例

第2～4図は、改質ガスと未改質の液体燃料を運転状態に応じて併用するようにした改質ガスエンジンに本発明を適用した実施例を示している。

第2図において、1はエンジン、2はその吸気通路、3は排気通路を示しており、上記吸気通路2には、絞弁4の下流に電磁弁式のガス噴射弁5

が臨設されているとともに、吸気ポート近傍に同じく電磁弁式の液体燃料噴射弁6が臨設されている。尚、7は吸入空気量検出用のエアフローメータ、8はエアクリーナ、9はアクセル操作量センサである。また上記排気通路3には改質器10が設けられており、負圧式アクチュエータ11により開度制御される排気バイパス弁12によつて改質器10内を通流する排気量が制御されるようになっている。尚、13は負圧源から上記アクチュエータ11へ供給する負圧を制御する電磁弁である。

14は液体燃料、例えばアルコールを貯留する燃料タンクであつて、定圧ポンプ15、流量制御用電磁弁16および逆止弁17が介装された液体燃料通路18を介して上記改質器10の燃料入口10aに接続されているとともに、上記流量制御用電磁弁16上流

で分岐した噴射用通路19を介して上記液体燃料噴射弁6に接続されている。20はリターン燃料通路である。

上記改質器10で改質されたガスが取り出されるガス出口10bは、ガス冷却器21が介装されたガス通路22を介して上記ガス噴射弁5に接続されており、かつ上記ガス通路22には、上記ガス冷却器21の下流にガス圧力センサ23が、これより更に下流にガス遮断弁24が夫々介装されている。上記ガス冷却器21は、エンジン冷却水と改質ガスとの間で熱交換を行うもので、そのエンジン冷却水の温度は冷却水温センサ25によつて検出されるようになっている。

また26はエンジン1の回転数を検出するためにデイスクリビュータ27に設けられたクランク角セ

ンサ、28は改質器10内の触媒温度を検出する触媒温度センサであつて、コントロールユニット29は、これらのセンサ類7, 9, 23, 25, 26, 28からの信号に基づいて、ガス噴射弁5, 液体燃料噴射弁6, 流量制御用電磁弁16等の制御を行つている。上記コントロールユニット29は、第3図に示すように、MPU(中央演算装置)31と、このMPU31を制御するプログラムおよび所定のデータが書き込まれたROM32と、外部データの一時記憶等を行うRAM33と、入力信号および出力信号の処理を行うI/O34とから構成されている。尚、このコントロールユニット29は同時に点火時期制御、アイドル回転数制御等を行つており、その制御用の各種センサやアクチュエータも接続されている。上記コントロールユニット29によつて行われる

安定であるので、後述のように補正を行つている。

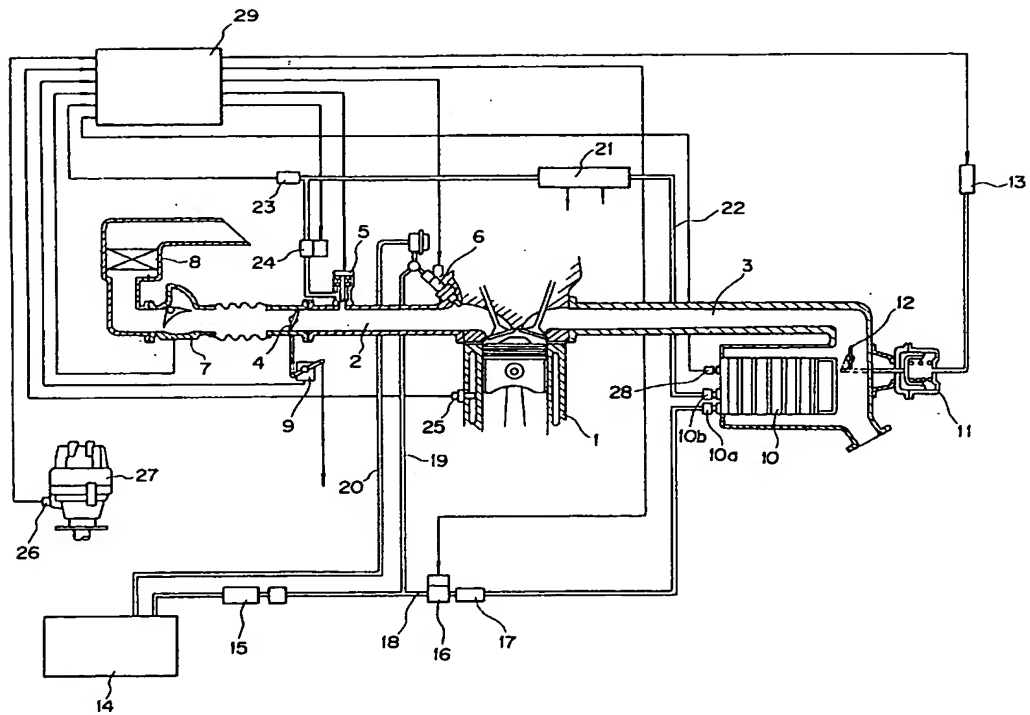
一方、改質器10による改質ガス生成量は、ガス噴射弁5の噴射量に応じて流量制御用電磁弁16により液体燃料供給量を調整することによつて制御される。また、これと同時に、改質器10の触媒温度を改質に最適な温度範囲に保つように、電磁弁13を介して排気バイパス弁12の開度が制御されている。

第4図は、ガス噴射弁5の開弁時間を、上述した圧力、温度に対する補正を加えて設定する際の制御手順を示すフローチャートであつて、先ず①でアクセル操作量 B 、エンジン回転数 N 、吸入空気流量 Q_a を、夫々アクセル操作量センサ9、クラック角センサ26、エアフローメータ7の各出力信号から読み込み、②でこれらの条件に基づいて適

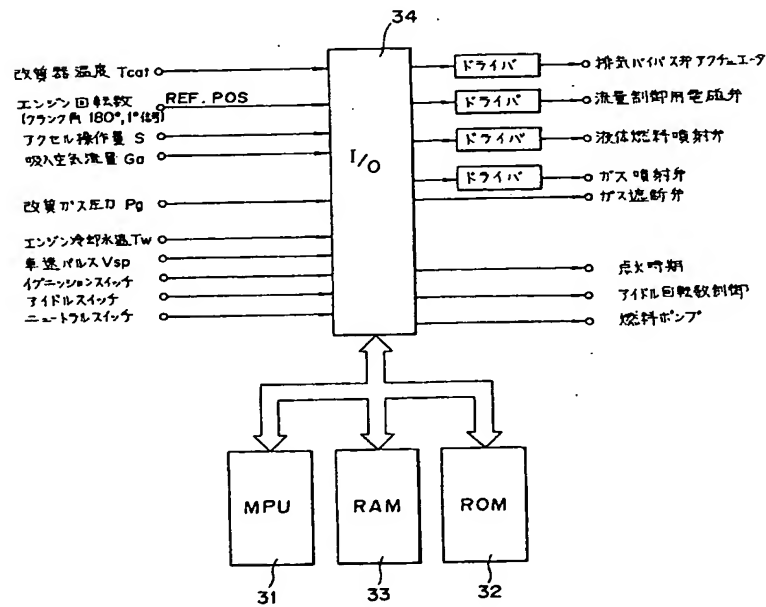
燃料供給量の制御を簡単に説明すると、先ず改質ガスは燃費特性、排気特性に優れ、未改質の液体燃料は出力特性に優れていることから、機関の運転状態に応じて夫々適切なガス噴射量、液体燃料噴射量が演算され、かつこれに対応したガス噴射弁5および液体燃料噴射弁6の開弁時間が設定される。上記ガス噴射弁5および液体燃料噴射弁6に対する駆動パルス信号は、夫々エンジン1の1回転毎に、両者同時もしくは連続したタイミングで出力されるので、そのON時間が上記のように設定された開弁時間に相当する。ここで、液体燃料噴射弁6においては、定圧ポンプ15によつて燃料圧力が一定に保たれるので、燃料の重量流量が開弁時間に略正比例に比例するが、ガス噴射弁5においては、噴射される改質ガスの圧力、温度が不

適なガス基本噴射量 T_{p00} を演算する。このガス基本噴射量 T_{p00} は、エンジン1回転当たりつまり噴射1回当たりの基準圧力、温度(例えば4ata, 0°C)における噴射量を示している。次に③で、上記ガス基本噴射量 T_{p00} から単位時間当りのガス流量 G_g を、 $G_g = T_{p00} \times N$ として求める。④では、ガス圧力センサ23で実際に検出されたガス圧力 P_{g0} と、冷却水温センサ25で検出された冷却水温 T_w とを入力する。次いで⑤で、ガス噴射弁5における真のガス圧力 P_g を、 $P_g = P_{g0} - K G_g$ なる関係式で演算する。ここで $K G_g$ は、ガス遮断弁24やガス圧力センサ23下流の配管による圧力損失を示すもので、係数 K は予め実験的に与えられている。すなわち、ガス流量 G_g に応じた補正を、実際に検出したガス圧力 P_{g0} に付加することによつて、

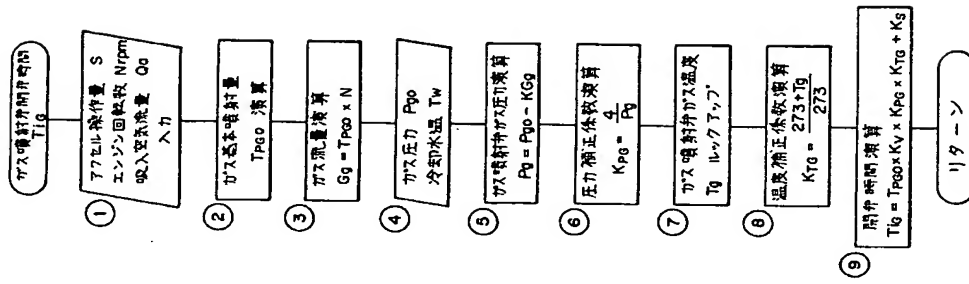
第 2 図



第 3 図



第 4 図



第 5 図

